

第73回(秋季)通常総会 概要

全国公立短期大学協会(会長・柳沢幸治 大月市立短期大学長)は、令和5年10月23日(月)に、東京 AP 虎ノ門会議室において第73回(秋季)通常総会を開催した。総会には全15大学(3大学はオンライン参加)の学長・事務局長32名が参加した。

午前11時に開会し、柳沢会長の挨拶の後に来賓の文部科学省高等教育局大学教育・入試課課長補佐中村栄作氏から挨拶と「短期大学を取り巻く高等教育政策の状況について」説明があり、その中では、今後の急速な少子化に伴う18歳人口の減少等を踏まえた高等教育の適正な規模と目指すべき姿などについて、9月25日に中教審へ諮問が行われたことについても言及があった。

総会議事では、公短協の(1)令和6年度事業計画、(2)令和6年度予算編成及び会費、(3)次期役員を選出等について審議・承認されたほか、このたびの中教審への諮問に関連して、その審議状況を見極めつつ短期大学の現状や今後のあるべき姿などについて議論し、中教審へ意見を届けていくことについても確認がなされた。

「研究協議 1」では、ChatGPT の教育への導入が進められつつある現状を踏まえ、言語脳科学者である東京大学大学院総合文化研究科(教授)酒井邦嘉先生から「生成 AI の教育利用への課題」について講演があったのち、生成 AI の問題点等に関連して活発な意見交換が行われた。

「研究協議2」の学長の実践事例発表では、山形県立米沢女子短期大学学長阿部宏慈先生からは公立の女子短期大学のあり方などについて、また、川崎市立看護短期大学学長坂元昇先生からは地域包括ケアシステム等を目指して4大化を進めてきた経緯などについて発表があり、大変に活発な意見交換が行われた。

「研究級議3」の各大学から提案された課題の協議では、①旭川市立大学短期大学部、②山形県立米沢女子短期大学、③大月市立大月短期大学、④大分県立芸術文化短期大学、⑤鹿児島県立短期大学からの提案について、それぞれ意見交換が行われた。

最後に、本年度をもって4大化が完了し、公短協を退会することとなる川崎市立看護短期大学学長坂元先生から退会の挨拶があり、16時45分に柳沢会長の閉会の挨拶をもって終了した。(了)